

10代の母という 生き方 ⑬

大川 聡子

★はじめに

2013年の日本の若年母親の出生数は、12,964人（人口動態統計）であり、全出生数に占める出産割合は1.26%と少数です。10代での妊娠・出産はその後の生活に大きな「社会的リスク（経済的な不安定、配偶関係の不安定、家族との疎遠、母親としての未熟性を指している）」を抱えていく可能性が高い（定月，2009）とされています。

こうした状況にある若年母親の特徴を明らかにするために、筆者が若年母親に実態調査を行なった結果（詳細はマガジン14～20号に掲載）、他者に母親として認められることの困難さについて多くの意見が述べられました。その理由として、年上の母親達との関係づくりが困難なこと、周囲から児童虐待のリスク要因としてとらえられていることが挙げられています（大川，2010）。Marshallら（1992）は、社会的ネットワークからのソーシャルサポートがあることが、親の効力感を高めることを明らかにしています。このことから、住民が若年母親に対する理解を深める地域づくりが、若年母親への育児支援において重要であると考えました。

海外に目を向けると、アメリカでは妊娠後期から産後6か月間、ボランティアが若年母親の家庭に継続訪問を実施し、訪問を受けた母親は子どもに対する理解が深まり、母子相互作用が円滑に行われていることが報告されています（Barnet et al., 2002）。イギリスでは、10代母親自身がボランティアとして地域活動に参加している事例もみられます。ボランティア参加に関しては、時間の制約や人種差別、地域に対する外部からの差別など様々な困難があるようですが、こうした地域に根差した実践が、10代母親の社会的包摂のための個人的、社会的、政治的な障壁をなくす可能性を生み出している（Greene, 2007）と意味づけられています。

このように、海外では若年母親にボランティアが関わることのメリットや、様々な困難の中で若年母親が地域活動を行う効果についても検討されています。筆者が2004年からフィールドワークを行っている若年母親のサポートグループ「Z」には、地域の更生保護女性会メンバーが保育ボランティアとして参加されていました。そこでは、ボランティアをする側—される側、という関係だけでなく、母親として同じ土俵の上に立ち、共に学びあう、ボトムアップ的な関わりがグループの中で自然に行われていました。今号および次号では、こうした場に参加するボランティアの若年母親に対する認識と支援について明らかにし、若年母親を支える地域づくりについて考察します。

★ 研究目的

本研究では、若年母親サポートグループ「Z」に保育ボランティアとして参加している更生保護女性会メンバーへのインタビューから、住民ボランティアの若年母親に対する認識と支援について明らかにします。その内容を基に、若年母親を支える地域づくりについて考察します。

★ 研究方法

1. グループ「Z」の概要

グループ「Z」は若年出産した母親を対象に「子育てに関する知識や技術の取得、母性を形成すること」を目的に、保健師が主体となり200X年に発足しました。毎月1回2時間程度、X市保健センターで開催されています。2008年度の参加人数は5～14組でした。「Z」のスタッフは、保健師、保育士、助産師、栄養士、ボランティアなどです。ボランティア、保健師、保育士は主に育児を担当し、助産師、栄養士、保健師はプログラムを担当します。毎月のプログラムはメンバーによって決められ、運動会、クリスマス会等季節の催しを重視し、内容は多岐にわたっています。終了後にはスタッフ間でミーティングを行い、情報共有しています。

2. グループ「Z」におけるボランティアの関わり

グループ「Z」は、子どもの保育を地域住民ボランティア団体である更生保護女性会に依頼していました。更生保護女性会は、地域社会の犯罪・非行未然防止のための啓発活動を行うとともに、青少年の健全な育成を助け、犯罪をした人や非行の少年の改善更生に協力することを目的とするボランティア団体です。更生保護女性会は地域に根付いており、若年母親と生活圏域を同じにすることから接点も多いです。母親とボランティアは、調理実習開始時に子どもを預かる時と、終了後母親に子どもを受け渡す時に関わりを持っています。ボランティアは、グループ「Z」開始当初から2009年3月まで毎月3～5名が参加

し、子どもの保育を担当していました。

3. データ収集方法

2008年1月に半構造的質問紙を用いてグループインタビューを行いました。対象者の選定は、当月ボランティアに参加していた3名に依頼し、了解の得られた3名全員を対象者としました。インタビュー時間は約60分でした。インタビューの内容は、対象者の年齢、子育て経験の有無、育児支援の経験（年数・内容）、グループ「Z」のボランティアを始めた経緯、関わり始めた時期、グループ「Z」参加当初の母親・子どもの印象、最近の母親・子どもの印象、グループ「Z」の子ども達に関わる上で気をつけていること、10代で出産した母親に対して必要な支援等です。グループインタビュー時は、すべての項目に対し全員が十分発言できるよう配慮しました。

4. 分析方法

分析方法は、質的記述的研究としました。録音した内容を基に逐語録を作成し、逐語録の内容をインタビューデータの意味を解釈しながら内容ごとに分類し、コード化しました。分類したものを徐々に抽象度を上げながら、カテゴリー別に類型化しました。本研究の質的データの内容とカテゴリーの整合性については、第3者である社会学、心理学、看護学分野の研究者から評価を受け、修正を行いました。

5. 倫理的配慮

倫理的配慮として、研究への参加は自由意思に基づくものであり、参加協力を断った場合も不利益を被ることがないことを口頭にて説明しました。面接の内容は、調査協力者の許可が得られた場合に録音し、個人名や地域が特定できないよう配慮しました。面接調査の実施時間、実施場所については、対象者の住居近隣とし、生活への支障がないよう配慮しました。本調査は、大阪府立大学看護学部研究倫理委員会において承認を得ました。

★結果

インタビュー対象者の年齢は50代、60代、70代それぞれ1名ずつでした。対象者は全員出産経験があり、子どもの数は2～4人、第1子出産年齢は26～27歳でした。グループ「Z」での保育ボランティア経験年数は3～4年間であり、他の5名のメンバーと交代で毎月参加されていました。「Z」以外での育児支援の経験がある人も2名いました。インタビューデータを基に、大カテゴリーとして1. グループ参加当初の若年母親に対する認識、2. 関わりが深まってからの若年母親に対する認識、3. 若年母親に関わることの難しさ、4. 居心地のいい場づくりのための支援、5. 関係を構築する、の5項目が抽出されました。分析した結果をカテゴリー別に記します。以下、大カテゴリーは数字表記、カテゴリー

ーを【 】, サブカテゴリーを《 》, コードを〈 〉で表します。

1. グループ参加当初の若年母親に対する認識

(1) 《関わるきっかけ》

① 〈若年母親の保育ボランティアは更生保護の務め〉

グループを主宰しているX市保健センター保健師は、当初保育ボランティアを民生委員に依頼しました。民生委員と更生保護女性会を兼ねているメンバーが、市からの依頼について更生保護女性会の理事に相談したところ、理事であるFさんは民生委員としてでなく、更生保護女性会の行事として位置付けるべきであると考え、ボランティアを受けることをメンバーと相談して決定したと語っていました。

最初はね、(市から)民生(委員)のほうにお話がおりにきたんですよ。DさんとEさんとかが「Zがあるんだけど」って(理事の)Fさんにお話ししたら、更女(更生保護女性会)で、ひとつの行事に取り入れてほしいから言うので。みんな決めて参加させていただいたんです。(Cさん)

(2) 《関わり始めの若年母親の印象》

① 〈イメージ通りの若年母親〉

インタビュー対象者の中で、「Z」に最初に関わったCさんは、若年母親がグループ開始時に音楽をかけて踊りだしたり、保健師がグループ開始の声をかけても参加するそぶりを見せないといった振る舞いを見て「やっぱり」若い母親はこんな感じなのかと思い、唾然としたと語っていました。

カセットをバーッとかけて音楽鳴らして、パーッと踊ったりね。「始めますよ」言うても何かちょっと…。「ああ、やっぱり10代のお母さんってこんな感じなんかな」と思って、ちょっと最初は唾然としましたけど。(Cさん)

② 〈他の母親グループとの雰囲気の違い〉

ボランティアは、他の母親サークルでも支援を行なった経験があり、グループ「Z」は他のサークルの母親と雰囲気が違うと感じていました。

(他の母親サークルに)来てるお母さんと、ちょっと違いますね。(他のサークルは)年代上やから。雰囲気がっていうのか、何かな。(Cさん)

やっぱり外見とか、そういうの。(Aさん)

おとなしめ?(Bさん)

向こう(のサークル)はね。(Cさん)

2. 関わりが深まってからの若年母親に対する認識

(1) 《関わりが深まってからの若年母親の印象》

① 〈メンバーが変わり落ち着いた〉

参加当初はメンバーの振る舞いに唾然としていたボランティアも、最近は落ち着いた感じの母親が多くなったと語っています。子どもの就園や本人の希望によりグループを辞めるなどして年々メンバーは入れ替わるため、開始当初と現在のメンバーの印象は異なると全員が語っていました。

この頃、みんな落ち着いたお母さんが多いからね。全然、もう最初とは（違う）。（Cさん）

② 〈母親の行動に慣れさせられた〉

Bさんは、「Z」に参加するメンバーの顔ぶれが変わっただけでなく、何回か若年母親と接した上で、自身の彼女たちに対する認識が変化しているととらえていました。Bさんは、自身のこうした変化を「慣れさせられた」と表現していました。

もう（母親たちに）慣れさせられたというか。こちらのほうがね。だんだん慣れたというか。向こう（母親たち）がちょっとおとなしなったというか。そこは定かじゃないですけどね。（Bさん）

(2) 《若年母親流の育児を認める》

① 〈若くても母親として行動している〉

ボランティアは、他のサークルとの雰囲気の違いは感じつつも、それは年齢が若いからであり、母親としての振る舞いや育児は一生懸命にやっているだろうと感じていました。

（グループ「Z」は）年がそんだけ若いいうだけで、ちゃんとお母さんはしてはるん違うかなと思いますけどもね。（Aさん）

あの子らはあの子らなりに、一生懸命（子どもを）みてるんやろなと思いますね。（Bさん）

② 〈子どもの行動を母親に転嫁しない〉

Cさんは、子ども達が多少乱暴に振る舞うことについても、年齢相応の行動であり母親が何歳であろうと関係ないととらえていました。

友達にポーンと積み木投げたりすんのは、どこの子もするでしょ？遊んでる間にね。どこの子でも小ちゃい時は、そんなんは結構ケンカみたいな感じですよ。何回か見ましたけど。それは誰でも、（親が）10代ではなくてもすることやからね。（Cさん）

③ 〈自己流の育児を受け入れる〉

ボランティアは、若年母親に対して世代の違いを感じており、季節に合わない服装をしている時は、助言したくなることもあると言います。しかし、それも10代である若者の特性であり、子どもを産んで親になっても、若いうちは自分の思うようにしたいのだろうと考え、若者らしい服装を受け入れようとしていました。

(冬場に)背中見えてる子もおるしな。しゃあないわ思って。若いうちに何でもしたいんやから、子どもはもう別やねんやろな思うわ。自分のおしゃれになったら。(略)だから、今は何も言うたって。自己流で行きはるやろな思うわ。(Bさん)

④ 〈“子ども”なのに子育てをしているのは偉い〉

インタビューの中でボランティアは、若年母親を「子どもみたい」と述べる場面もありました。ボランティアは、若年母親達の努力は評価していますが、まだ「子ども」であるにとらえています。そうした認識のもと、「子ども」なのに「母親」としてちゃんとやっていることが「偉い」というように、若年母親の育児を寛容的に受け止め、受け入れようとしている様子が見られました。

(母親の)年齢考えたらね、偉いわと思う。(Cさん)

そう。やっぱり、みんな遊びたい。(Aさん)

まだ、ご自分が子どもみたいな感じでもんね。(Bさん)

次号へ続く

引用文献

- Barnet,B., et.al. : (2002) The Effect of Volunteer Home Visitation for Adolescent Mothers on Parenting and Mental Health Outcomes, A Randomized Trial, Archives of Pediatrics and Adolescent Medicine, pp1216-1222.
- Granovetter, S., (1973) :The Strength of weak ties, American Journal of sociology, 1973 (78) ,pp1360-1380 (=野沢慎司, 2006, リーディングスネットワーク論, 家族・コミュニティ・社会関係資本, 第4章, 大岡栄美訳, 弱い紐帯の強さ, pp123-158)
- Greene,S., (2007) :Including Young Mothers: Community-based Participation and the continuum of active citizenship, Community Development Journal,42 (2) ,pp167-180.
- Marshall,T.H.,BottomoreT., (1992) :Citizenship and social classes,1992 (=岩崎信彦, 中村健吾訳, シティズンシップと社会的階級, 法律文化社, 1993)
- 大川聡子 (2010) : 10代の母親が社会化する過程において、顕在化する支援ニーズ, 立命館産業社会論集, 46 (2), pp67-88.
- 定月みゆき (2009) : 若年妊娠・出産・育児への対応, 母子保健情報, pp53-58.